様式1

令和6年度　学校評価表

尾道市立高西中学校

学校教育目標	志高く　未来を拓く　高西中教育　～　自立・協働・創造　～
a ミッション	小中連携の推進による自立性・協働性の育成
a ビジョン	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することのできる生徒の育成

評価計画						自己評価						学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	g 7月 達成値	h 1月 達成値	h 達成度	i 評価	総合評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
静まるときは整然と　弾けるときは思い切り	学力の向上	主体的な学びの実現	①個別最適な学び ・逆向き単元構想図･指導案の作成 ・授業の導入の工夫 ・子どもの声に耳を傾けながらの授業改善 ②協働的な学び ・生徒理解に基づく学習集団の育成 ・効果的な協働学習の設定 〈個別ベースと協働ベースを使い分けた単元内自由進度学習の実施〉 ③「いきかたナビゲーション（『いきナビ』）」の実施 ・キャリア・ログ「学びの地図」の活用 ・「なりたい自分」に近づくための理想とするロールモデルとの出会いの設定（キャリア講演会）	①生徒アンケート「授業では、受け身にならず、自分から進んで学習に取り組んでいます」における肯定的評価	75%	66%	66%	88%	B	B	○「自由進度学習」の実施や生徒の実態把握に基づいた授業展開 2学期（9月１３日）には、公開研究会を行い、保健体育科、社会科、数学科、国語科、理科の５つの教科で自由進度学習を行った。生徒が主体的に学んでいけるよう、様々な選択肢や実験・体験ができるコーナーを準備した。しかし、達成度は変化が見られず、一斉授業や日々の授業では受け身になってしまう傾向があるのではないかと考えられる。	③			・全体的な内容として、とてもバランスのとれたすばらしい取組みだと思います。「学びの地図」では、なりたい自分探しで、自分から努力する事を目標としていて、とても良い取組みだと思います。継続的な取組みをお願いします。 ・生徒が主体的に学びに取り組む項目では、達成値に変化が見られない。自ら積極的な学習は、目標が定まれば、主体的な学習が期待されると考えます。興味があること、好きなこと、また憧れ程度でも構わないので、何か早く積極的になれる事柄を見つけることが大切と考えます。 ・自由進度学習は生徒に浸透してきたようだが、全ての教科で実施することができれば、生徒たちの意識がさらに良くなることと期待したい。	○引き続き、単元内自由進度学習や選択肢と自己決定を取り入れた授業を展開し、生徒が主体的に授業と向き合い、「自分で」授業を進めているという実感をもてるようにしていく。 ○協働できる場面を授業の中で意図的に取り入れ、友達と協力して学びを深めている実感をもてるようにしていく。 ○単元内自由進度学習や選択肢と自己決定を取り入れた授業、またICTを効果的に取り入れ、学びを体感的にするアクティブコーナーやプリント等による反復学習を繰り返し行いながら学力の定着を目指す。 ○高西中学校版キャリア・ログ「学びの地図」の活用、いきかたナビゲーションの実施に留まらず、それらをキャリア教育の要として、日々の教育活動全体を通して「なりたい自分」へ近づけるよう取り組んでいく必要がある。また、「学びの地図」や「いきかたナビゲーション」の実施の目的を教職員間・生徒や保護者と共有していく必要もある。
				②生徒アンケート「授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています」における肯定的評価	88%	84%	88%	100%	B		○協働学習の設定 自由進度学習においても、他者と協力しながら活動に取り組んだり、お互いの意見を交流したりして、協働学習を仕組むことができた。１年生は肯定的評価が85.6%、2年生は83.3%、3年生は89%と、上半期と比較し、数値は上昇していることが分かる。今後も引き続き、協働学習を仕組み、自身の考えを深めたり広げたりできるような授業展開にしていきたい。					
				①②学力調査（１・２学年は標準学力調査　3学年は実力テスト）の全国差4月からの変容	4月からの変容 5教科平均 +2	5教科平均(1年) −1.52 (2年) +0.28 (3年) +2.26	98%	98%	B		○基礎学力の定着の課題 標準学力調査(1年)において全国の平均に対して4月からの変容が国語が−1.5、数学が−3.9、理科が−2.5、社会が＋1.8、英語が−1.5という結果になった。2年生においては、国語が+5.3、数学が+3.7、理科が−1.9、社会が−2.0、英語が−3.7という結果になった。単元内自由進度学習や選択肢と自己決定を取り入れている授業、ICTを積極的に取り入れている授業では数値の上昇が見られる。 学力診断問題(3年)において全国の平均に対して第１回から第５回の変容が国語が-1.2、数学が-1.5、英語が+4.3、社会が+0.9、理科が+8.8という結果になった。３年生は、高校受験に向けて、徐々に家庭学習の時間も増え、学力が定着してきていることが分かる。					
				③生徒アンケート「自分の夢や目標、なりたい自分に近づくために自ら進んで努力することができている」における肯定的評価	75%	97%	104%	129%	A		○「学びの地図」の作成といきかたナビゲーションの実施 特別活動を軸として、全校学活、「学びの地図」による目標設定、そして「いきかたナビゲーション」を年間を通して計画的・系統的に実施することができた。生徒アンケートでは、約78%の生徒が「なりたい自分」に近づくために努力できていると肯定的に回答している。一方で、約２０%の生徒が、否定的な回答していることから、継続的にキャリアカウンセリング等で、それぞれの思いに寄り添いながら「なりたい自分」や小さな目標設定ができるよう支援していく必要がある。また「主体的な学び」を実現するために、生徒一人一人が「夢」や「なりたい自分」をもつことや、自分の将来を考えるのに理想とするロールモデルに出会うことで「学ぶ必然性」を見いだすことができる「環境」を整えていくことが必要であると考える。					
	生徒指導（支援）の充実	お互いの個性を認め合える集団の実現	①生徒にとっての安心・安全な居場所づくり ・お互いを支え合う集団づくりによる学級経営の充実 「学級力向上プロジェクト」による学級のカリマネ 「モデルとしての教師」 「肯定的評価・フィードバック」 ・自己肯定感の涵養 「アセスと学級力アンケートによる生徒支援」 ・SSR「ほっとルーム」の活用 「相談する力」の育成 「自分の強みを知り生かす力」の育成 ②学校行事、生徒会活動等をはじめとした「挑戦の機会」の充実と「感動体験」の共有 ・生徒が主体となる自治的活動の推進 「リーダーを中心とした集団づくりとフォロワーの育成」 「生徒の笑顔、元気を引き出す仕掛け」 ・問題の発見と共有から始まるプロセスを大切にした取組 「学級力向上プロジェクトの推進」 「各学級の状況に応じた学級活動の実施」	①生徒アンケート「自分たちの学級は、安心して生活できる学級です」における肯定的評価	80%	92%	89%	111%	A	A	○安心・安全な居場所づくりに向けた取組の継続と充実 「主体的な学び」の実現に向けて必要不可欠となる、生徒一人一人が安心・安全に過ごすことができる居場所づくりに向けて学校全体で取り組むことができた。日々の授業をはじめ、2学期は「鶴羽ヶ丘音楽祭」などの教育活動において、生徒に寄り添い共感的・受容的な人間関係づくりを行うことで「お互いの個性を認め合える集団の実現」に向けた風土を醸成することができた。鶴羽ヶ丘音楽祭実施後の生徒アンケートでは、「鶴羽ヶ丘音楽祭は充実していた」についてアンケート項目では96.5%、「鶴羽ヶ丘音楽祭は楽しかった」については97.8%といずれも肯定的評価の割合が高かった。アセスにおいても、教師サポートが学校全体63ポイント（1学期比＋３ポイント）、友人サポートが学校全体63ポイント（1学期比＋３ポイント）であり、教師と生徒間、生徒同士においても全体的に良好な関係性であることがわかる。一方で、数値より課題が見られる学級においては、生徒への個別対応や学級組織づくりについて学年や学校全体で取組を進めていく必要がある。 学級力アンケートでは、「自分たちの学級が、安心して生活できる学級です」において学校全体は、89%（1学期比－３%）であった。数値に学級間で増減（12学級中７学級が肯定的評価が増加）が見られることから、生徒の様子はもちろん、アンケートの個別の結果にも目を向け、子供達の心の声や思いを汲み取り、学級経営に反映させていく営みが組織的に必要である。また新年始めの校内研修では、校長より「教師の心構え」についての講話があった。より信頼される学校づくりに向けて、教師としての「使命感」や「専門性」についての重要性について学校全体で考え、教師としての「心構え」を大切にしていくことが、生徒の安心・安全な居場所となる学校づくりに向けた第1歩となると考える。 主体的な学びの実現に向けて、その基盤となるよりよい学習集団の形成に向けて、学級力向上プロジェクトや日々の学級経営をより充実させていく必要がある。 ○SSR「ほっとルーム」の活用による個に応じたきめ細やかな対応 昨年度より開設した「ほっとルーム」では、1学期に引き続き、教室に入ることや学校にくることが難しい生徒など、ほっとルーム担当を中心に組織的にそれぞれの困り感や不安感に寄り添いながら、支援することができた。ほっとルームでの生活では本人の意思を尊重し、苦手なことに上手に付き合うこと、生徒一人一人と向き合いながら考えることができるよう接している。今後もほっとルーム担当を中心として、学校全体として学校に来にくい生徒へアプローチしていく。	③			・とても良い学級環境づくりが出来ていると思います。先生方一人ひとりの努力は大変だとは思いますが、引き続きよろしくお願いします。SSR(ほっとルーム)も大変重要な場所だと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。 ・中間評価に続いて、達成値は高いので、多くの生徒が安心して中学校へ通っていることがうかがえる。	○安心・安全な居場所づくりに向けて学級力向上プロジェクト、アセスの活用を軸に取り組んできた。一方で、学級間の差が大きく見られたことも現状である。生徒・教員の多様性、そして強みと弱みを踏まえながら学校全体としてより組織的に取り組んでいく必要がある。学級集団づくりにおいては、学校全体として取り組みの方針や手法等をある程度揃えていくことが必要である。 ○ほっとルームの活用により個に応じた細やかな対応を学校全体として組織的に進めることができた。対応については、校内の教員だけでなく、養護教諭、スクールカウンセラーとの連携を引き続き続けていきながら、より専門的な視点で生徒支援できるよう取り組みたい。
				②各行事への生徒満足度（肯定的回答）	80%	98%	97%	122%	A		○鶴羽ヶ丘音楽祭を通した「挑戦の機会」の充実と「感動体験」の共有 安心・安全な居場所づくりを基盤として鶴羽ヶ丘音楽祭では学校全体、そしてそれぞれの学級で取組を進めた。今年度も、昨年度に引き続きしまなみ交流館で、多くの地域や保護者の方々に参観していただく中で盛大に開催することができた。昨年度の成功体験や先輩方の姿をもとに、学級のリーダーを中心に生徒主体で取り組むことができた。また、当日参加できない生徒も、それぞれができることをしながら参加したり、オンラインで各学級の発表を聴くことで、学級の一員としてできる形での参加ができた。行事で培った力やつながりを日々の日常生活にどうつなげていくかについて今後の検討課題である。 ○学級経営のさらなる充実に向けて 2学期も1学期同様に、学校教育目標の具現化に向けて、各担任が作成した学級経営計画に基づいて学級経営を進めた。教師がどのようなビジョンを描くか、そのビジョンに基づいてそれぞれの専門性や強みを活かすことができた面も多くあった。一方で、アンケートをとった後、パワーアップアクションを決めた後の学校全体の動きについて、再度教員の中で共有しておくことが必要であると感じた。さらに取組は教員・生徒に定着してきたが、取組がマンネリ化している一面も見られるので、再度取組の目的、意義を教員・生徒共に確認して取組を進めていきたい。	③			・鶴羽ヶ丘音楽祭は、参観したかったのですが、行くことができなかったので残念でした。とても素晴らしい音楽祭だったと察します。生徒同志の絆も深まったものと思います。学級経営のさらなる充実に向けての取り組みも大変だとは思いますが、引き続きよろしくお願いします。 ・各行事への満足度もほぼ高い達成値であるので、前期後期で行っている学校行事での各教員の指導には自信をもっていただきたい。 ・音楽祭や体育大会等の大きな行事では、それぞれが集まったパワーが物凄い力となり、素晴らしい結果を生み出している。	○「静まるときは整然と　はじけるときは思い切り」の合言葉をもとに、学校教育目標、そして目指す生徒像の具現化に向けて取り組むことができた。先輩方の姿から「憧れ感」を抱き、「あんな姿になりたい」という好循環が生まれていることもよき高西中学校の伝統として根付きつつある。今後も、生徒一人一人が「挑戦」し「感動体験」を共有できるよう、教員がモデルとなり導くことや、仲間と切磋琢磨する中で勇気をもって踏み出すことができるよう取り組んでいきたい。また、その「一歩」を踏み出すことができるよう、それぞれが安心して挑戦できたり、失敗できたりする居心地の良い環境づくりを推進していきたい。
	信頼される学校づくり	教育の質を高める働き方改革の実現	①めざす生徒像の実現 （自立した生徒・協働できる生徒・創造できる生徒） ・学年実態に応じて計画的に取組む ②「チーム高西」での取組 ・全教職員で秩序と活力ある学校づくりに取組む ・コミュニケーションを大切にする ・主任主事を中心として取組む ・教職員間で情報を共有する ③ワークライフバランスを意識した働き方の推進 ・水曜日をリフレッシュＤＡＹとし、計画的に過ごす意識を高め、心身ともに元気な先生の姿に取組む	『学校の働き方アンケート』において、「日々の業務の中で充実感を得られている」と回答している教職員の割合	90%	84.6%	92.3%	103%	A		12月実施の『学校の働き方アンケート』において92.3%が充実感を得られていると回答した。目指す生徒像の育成に向けて、2学期以降も学校行事での生徒の姿から取組の成果を感じることができている。日々の業務を計画的に進め、トラブルの未然防止を図るためにも、日々の生徒の様子から変化に気付き、声をかけていくことが必要である。また、生徒実態に応じた取組も必要である。	③			・アンケート結果は、充実感を得られているとの事なので、引き続き取り組みをお願いします。そんな中でも、気持ちは、常に生徒ファーストでお願いします。 ・一部、目標値に達していない取り組みもあるが、教職員の熱心さの表れでもある教職員が、一致結束していれば良い教育ができると考える。 ・先生方の働き方改革の実現はなかなか難しいようだが、PTAでできることがあれば使っていただき、改善されることを望む。	○めざす生徒像の実現への取組が教職員の充実感につながるよう、主任主事を中心に計画的な取組を継続していく。 ○行事においても担当者まかせにならないよう、チーム高西で取組を進めていく。 ○リフレッシュＤＡＹの意義を再度確認し、ワークライフバランスの充実を目指し、めざす生徒像の実現につなげていく。 ○教職員一人一人の充実感を高めていく。
				『学校の働き方アンケート』において、「教職員間で業務の手助けなど、互いに頼みやすい雰囲気がある」と回答している教職員の割合（23/26人）	88%	96.2%	96.2%	109%	A	B	2学期以降も学年主任や主任主事を中心に計画的に取り組み、仕事分担をしている。また職員同士で声かけをしながら、取組の確認をしている。 これからも教職員間のコミュニケーションをしっかり取り合い、チーム高西で様々な事に取り組んでいく。					
				「リフレッシュＤＡＹはリフレッシュするために18時までに退校」する割合	80%	42.3%	49.1%	61.3%	C		生徒指導等があり、水曜日にリフレッシュＤＡＹを実施できない事が多かったが、平均すると26名中13名が実施できた。 リフレッシュＤＡＹの趣旨を学年主任を中心に再度確認し、計画的に取り組むことでリフレッシュＤＡＹの実施ができるように呼びかけを継続していく。また、年度末に向けて計画的な仕事の取組を行っていく。					

【自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100　C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。